

ターミナルケア論	4年・後期	1単位	講師 片桐 貴子
科目カテゴリー	看護の統合	科目ナンバリング	3412014

1. 授業のねらい・概要

人間の生と死について学び、日本人の死生観について思考を深める。死を迎える人とその家族に対しその人らしい人生を送ってもらうための看護師の役割と使命について学ぶ。さらに遺族へのグリーフケアについて学習する。

2. 到達目標

1. 緩和ケアおよびホスピスケアの歴史、理念、倫理的問題について述べる事が出来る。
2. がんターミナル期において患者やその家族がどのような心理プロセスを抱くのか理解できる。
3. 全人的痛みとは何か理解し、どのような看護介入が必要であるかについて自らの意見を述べる事が出来る。

3. 授業の進め方

講義を中心に進めるが、視聴覚教材、グループワークを取り入れ、生きた授業になるよう努力する。学生の主体的な取り組みを期待する。

4. 授業計画（講義）

1. ターミナル期の看護とは	5. ターミナル期にある患者と家族への援助
2. 臨死期の理解と援助	6. 緩和ケアを必要とする人への看護
3. 人間の死と生き方にかかわる看護師の役割	7. ターミナル期にある人の心理状態と援助
4. ターミナル期にある患者への援助	8. グリーフケア

5. 成績評価の方法・基準

レポート評価 80% 受講態度・グループワークへの取り組み姿勢 20%で総合的に判断する。

6. テキスト・参考文献

教科書：ナーシンググラフィカ 緩和ケア メディカ出版

7. 学習に必要な時間，又はそれに準じる程度の具体的な学習内容

テキストの予習・復習（60分程度）

自分自身の死別体験や生と死に関する書籍を読み、自らの死生観を考えておくこと。

8. 受講上の留意事項

私語・授業以外の作業など講義の妨げになるものは全て厳禁とする。

自主的な学びとして積極的に取り組むこと。

9. 課題に対するフィードバックの方法

試験実施の際に傾向や解答を口頭で説明するか試験実施後解答を掲示する

10. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

選択科目である。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

医療機関における看護師としての実務経験、訪問看護実習における学生指導、災害救護の実務経験を活かして、講義を行う。